



町

内

お

知

ら

せ

令和 5年 2月 1日 第112号
瀬波中町 役員会 (文責: 田宮)

町内総会が流会に終わる

29日(日)午後1時から令和5年度の通常総会を参加者30名で開催しましたが、総会資料に不備があり、採決の結果流会となりました。

2月下旬に改めて通常総会を開催しますが、詳細については、後日周知させていただきます。



瀬波中町の左義長を
YouTubeで「瀬波中町」
と検索して下さい

左義長が1月8日(日)に行われました。今年は雪も無く、大勢の人に参加して頂きました。(田んぼはぬかるんで歩き難かったです。)

残念ながら、恒例の「交流会」は今年もコロナ禍のため取り止めとなりましたが、午後2時から左義長に点火しました。神事のあと、年男年女の手で左義長に点火されました。しばらくして「おき」ができると、スルメや餅を炙り、今年一年の健康を祈っていただきました。

午後4時頃に左義長を終えました。公民館の役員の皆さん、子供たち、保護者の皆さんありがとうございました。

瀬波に来た人相書



テレビの時代劇を見ていると、左のような犯人の人相書が辻々に貼られているのを見かける。今でいう犯罪者の**全国指名手配書**である。江戸時代には「人相書」と言われていた。江戸時代の刑法である「公事方御定書」に人相書の定義があり、それによれば「人相書きとは、当該人物の氏名・年齢・生国・背格好・容貌・着物・所有品・しゃべり方の特徴等を**言葉で**列挙されたもの」とある。

従って江戸時代は左のような「似顔絵」入りの人相書は存在しなかったということである。文字だけの「人相書」が瀬波町『御用日記』にときどき出てくる。今回は、文久2年(1862)6月3日に記述されているある傷害事件の人相書を紹介したい。

1 事件の概要

文久元年(1861)4月19日に母親知んを殴打しけがを負わせ、さらに6月6日に今度は父親啓助にもけがを負わせて逃亡した事件(両方とも重傷か?)。

2 犯人の生国・氏名

上州(群馬県)甘楽郡塩沢村の八太郎

3 八太郎の特徴

- | | |
|------------------|--------------------------|
| (1) 年齢31歳 | (8) 眉毛濃く、太き方 |
| (2) 丈低き方 | (9) 月代・髭濃き方 |
| (3) 色浅黒く、太り気味 | (10) 額中程髪際に逆さ毛あり |
| (4) 顔丸き方 | (11) 額真中よりにくぼみ疵跡あり |
| (5) 眼大きく、丸き方 | (12) 言舌荒く、早き方 |
| (6) 歯並び揃い | (13) その時の衣類 木綿紺浅黄、博多帯をしめ |
| (7) 耳・鼻・口は常体(普通) | 人相書き発給先 江戸南町奉行根岸肥前守 |

4 その他

犯人(らしき人物)を見つけた場合や犯人に関わることを聞いたりした場合の対応の仕方について記述されている。

江戸時代は上記のような「似顔絵」なしの文章だけから犯人像を想像するしか方法はなかったのだが、「中肉・中背、色浅黒く、眼大きく・・・」と言われても、犯人像をイメージすることはかなり難しかったと思われる。

取りあえず、見慣れない「よそ者」には警戒するとともに、「何となく似ている」と思った人物に出会ったり、見聞きしたら瀬波の町役人を通して町奉行所に届け出るようにと奉行所の役人は考えていたのではないと思われる。

お知らせ

1. 三吉神社の初午祭り

○ 2月5日(日) 午後7時から三吉神社にて

三吉神社は中町の大切な神社です。社殿には、今年も「五穀豊穰・商売繁盛・健康長寿」を祈念するため「初午祭」を行います。お参りにお出てください。



初午には、全国各地の稲荷神社で「初午祭」というお祭りが行われます。初午(はつうま)とは、一般的に、初午の日に行われるお祭りや風習をさします。

初午ということばは、2月最初の「午(うま)の日」からきています。和銅4年(711年)2月初午の日に稲荷大神が稲荷山に鎮座したゆかりの日なので、その年の2月最初の午の日を初午と呼びます。

初午の日には、その年ごとに変わります。



町内のホームページ

<https://oyoshi3232.wixsite.com/senami-nakamati>